

ふるさと河内

発行所
南河内
むらづくり塾

農業再生の取り組みについて

岩国農林事務所 農業部長 平田俊昭



「南河内むらづくり塾」が設立して二十年になり、むらづくりビジョンの策定、市民農園の開設、農作業受託組合の発足、菜の花フェスタなど各種行事の開催、圃場整備事業の推進、野菜や加工品づくりの振興など地域の皆様が一体となった活動は、先進的で自主的な取り組みとして高く評価されています。

一方では、平成十九年度の南河内営農アンケート結果から高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加への危機感が明らかになりました。岩国市の農業人口は十二年後に現在の四〇％にまで減少する予測結果が出ており「農地をどう守っていくのか」は岩国市の全体の緊急の課題でもあります。今年度はこの解決の手始めに市全体の各地域で、地域の話し合いにより、今後農地の受け手となる経営体（個人・法人・集落営農）を決め、それらに利用権の設定等により農地を集積する計画であります「人・農地プラン」を作ること、岩国市、農業委員会、農協、農林事務所が

協力して進めていきます。「人・農地プラン」を作ることにより、青年就農給付金や農地集積協力金などの支援を受けることができます。また、国で農地中間管理機構の整備が検討されていますので、農地の集積に一層の支援が受けられるようになると思われまます。

「南河内むらづくり塾」の活動で、法人化の検討を計画されておられます。圃場整備が進むこの機会に、だれが中心となって農地を守り、持続させるプランを話し合っていたいただきたいと思えます。

また、農地の集積は水稲や麦・大豆など土地利用型作物の機械利用や農作業を効率的に行い、農地の受け手の生産コストを下げるためのものです。農地を貸し出された方々も含めた南河内の農業活性化を検討することも大切です。

南河内は六五haの岸根クリの産地ですが、管理が不十分な園地が目立ちます。東部クリ協議会ではクリ剪定士養成などクリ産地強化を図っています。協力してカットバックや計画密植による樹園地の若返りを図り、栽培管理することで、収量や品質が大きく向上します。また、野菜は多品目が栽培されており、朝市や農協共販など売

た産地です。加えて、健康茶や河内娘味噌の生産・販売がされており、これを核に、原料生産+食品加工+販売の六次産業を取り組んでいくことも考えられます。南河内の豊富な資源を活かした農業再生を検討していただきたいと思えます。

最後に、「南河内むらづくり塾」には、地域の活性化に取り組みされてきた多くの実績があり、農業再生に向けて、皆様の知恵と行動力で地域の農業計画ができること信じております。今後、ますますのご活躍を祈念いたします。

南河内むらづくり塾 全体会議開催

七月三十日 南河内公民館に於いて平成二十五年度南河内むらづくり塾の全体会議が開催されました。塾長の開催挨拶につき山口県岩国農林事務所、岩国市役所農林振興課、山口東農業協同組合より来賓の祝辞を受け議題に入り、むらづくり塾より平成二十四年度活動報告、会計監査報告及び平成二十五年度活動計画案が各班長より提案があり、承認されました。

今年度の主な活動計画

- いきいき班
広場開設記念行事お米の抽選会
蛍の試験養殖 ふるさと河内の発行（年二回）
- ほのぼの班
一声運動 ふるさと伝承の収集
- らくらく班
南河内受託組合の取り組み
菜種のおねまき 市民農園
荒廃地対策（水田放牧）
- さんさん班
朝市振興作物づくり 健康茶の

販売 河内っ子娘味噌の生産販売、大豆の買取り
又全体事業として菜の花フェスタ、ふれあい広場開催記念行事等が決定されました。
これからも私達塾生一同計画の推進に向かって頑張るつもりです。よろしくお願いします。

新任のごあいさつ

南河内むらづくり塾 塾長 岡田知之

平成二十二年に副塾長に就任して、何もして来ませんでした。二十年前、ふれあい広場に、丸太組みの売場を作った時には自分も周囲の人達も若く、活力に満ち溢れていたものです。しかし塾生も代替りする様になり、高平さん、野地さん、大崎さん、森本さん達も旅立たれ、さびしい限りです。でも若い人達も入塾されて、次の二十年に向けて頑張りたいと思えます。

さてこれからは地域の高齢化に伴い、農業人口が減り、耕作放棄される農地が増えて、山林化するのではと思われまます。今、自分達に出来る事、「しなればいけない事」を有志の方々と検討中です。
田んぼに稲のある風景は、いつ見ても心休まるものです。荒地を見ると心が痛みます。後世に残したいものの一つは、豊かな農地ではないでしょうか。
地球温暖化が進み、どう変化するか解りませんが、私達が今しなければいけない事を、成し遂げたいと思えます。皆様方の協力をよろしくお願ひ申し上げます。
まだまだ暑い日が続きそうで

す。体に気をつけ、がんばりましょう。

むらづくり塾副塾長挨拶

山下博

平成二十四年四月二日（火）に開催されたむらづくり塾全体会議で、副塾長に選任されました。

四十年ぶりのUターン後、五年目を迎えたところで、まだまだ不案内なことも多いのですが、塾長の方針のもと、地域の振興に少しでも貢献できるよう精進したいと思えます。

気の利かない面に対しては叱咤頂くなど、ご指導の程宜しくお願ひします。

退任のごあいさつ

山本守

残暑お見舞い申し上げます。皆様如何お過ごしですか。私このたび三月末を以って、むらづくり塾塾長を退任致しました。

平成十七年に塾長をお受けして七年余り、南河内むらづくり塾ビジョン「みんなが喜んで住む南河内むらづくり」のため、高齢過疎の進む地域の活性化を目指して、微力ながら塾活動に励んで参りました。

これからも南河内の過疎化はますます進んでいく事と思えます。今まで出来なかつた新しい取り組みで地域の活性化を目指して活動される事を願っております。
最後になりましたが、お世話になった塾生の皆様はじめ地域の皆様にお礼申し上げます。今後ますますのご発展とご健康を祈念して退任のご挨拶と致します。

第十六回 菜の花フェスティバル

今年も四月十四日(日)晴天の下、JA山口東を初め、県農林事務所、岩国市役所等多くの皆様の支援を得て、第十六回目の菜の花フェスティバルが、岩国西中学校で開催されました。今年も例年一週間遅れの開催となり、桜は葉桜でしたが、その分菜の花はきれいに目立ち、文字通りのフェスティバルとなりました。

本事業実施にあたっては、村づくり塾が主体となり四月二日(火)に検討した開催計画に基づき、炊き込みご飯(さんさん班)、肉うどん(いきいき班)、焼きそば(らくらく班)及び餅(ほのぼの班)が例年通り提供されました。焼きそばや、肉うどん用のプロパンガスが漏れていたため、その修理で若干提供時間が遅れたもののすべて完売でした。

この他、地域のスイートポテトからは菜の花雑炊、母親クラブからは丹精込めたサイネリアの鉢物や遊休品バザーが展示され、錦川愛好会この指とまれのカラオケ大会、絆会のフラダンス、



野菜販売



焼きそば 暑いけどがんばりました



もちまき 多くの人で賑わいました



南河内子供教室岩国いいとも隊のよさこいの披露、この間には河内小学校・岩国西中学校PTAによる宝探しやふれあい広場の野菜市が実施されるなど楽しく賑やかな時間が過ぎて行きました。そして最後には県・市・JA・塾の代表六名による餅まきが実施されました。毎年このことではありますが、当日に向けての食材仕込みや、新聞折り込みチラシ、のぼりの設置の他、当日は朝早くからの準備・閉会後の始末等、関係各位のご理解とご協力の賜物と改めて想いを強くしているところです。

宝さがし

子どもよさこい

夏の農作業に思う

朝八時半、首にタオル、腰に蚊取線香ぶら下げて、畑仕事開始。私が出る頃はまわりの農家の人達は、ひと働きして朝食の時間である。気温はすでに三〇度に近く、一〇分もすると首筋に汗が流れてくる。そのうち額からポタポタと落ち始め、その汗が目にも染みて痛くなる。

首に巻いたタオルも役に立たず、日焼け止め兼用の化粧もひとたまりもなく落ちてしまう。例年以上の暑さにピーマンやナスもぐったり、グリーンカーテン用のゴーヤも、午後にはネットにやっとしがみついている状態である。里芋の葉は赤くなっているのに、草は青々と茂っている。「野菜は枯れないの!」とぼやきながら、悪戦苦闘の毎日。後少しと頑張ってみても、二時間限界でやめてしまおう。昨年、腰の手術をしたので畑にはコルセットを着用して出る。これが暑さを倍増する。

戻るとまずコルセットをはずし、体にへばりついた下着を脱いでシャワーを浴びる、直後、体重計にのると見事一キロ減っているが、毎日減る割には細くならないのである。冷えたスイカを食べてやっと思つて息つく。姑はシャワーも浴びる事もせず、汗びっしょりの服のまま休憩し、又畑に出たと思うと頭が下がるのである。あの根性だから九十七歳になっても「よう働いたもんじゃ」と自己満足していられるのだろう。根性無しの嫁は姑の足元にも及ばないが、昔の暑さとは違うんだから熱中症にでもなったら

大変と、自分なりにやっているのである。 森重和枝

味噌加工部

美味しい味噌作りを目指して早いもので、平成十六年四月に森林組合の加工所を借りて今年で十年になりました。保健所の指導が入り加工場の手直し、道具、原材料の購入等の資金は部員で出し合い、少ない資金のやりくりの中でスタートでした。地区の味噌作りの経験者の教えを受け、他地域の加工所視察等を行い、勉強を重ねての出発点でした。無添加で身体に良い美味しい味噌をと原材料にもこだわっています。



又、地産地消を目指し、今シーズンは米は地元産・大豆も六割強が地元産、他は遺伝子組み換えでない国産を使用しています。いつの日か全量地元産になればと思っています。大豆を作付けしておられる方は加工部に声をかけて下さい。寒い農閑期だけの味噌作りですが、この十年間に南河内はもちろん、他の地区からも序々に味噌加工の委託の声がかかって来るようになりました。「河内っ娘」味噌の販売も、河内っ娘味噌でないと言われる消費者が少しづつではあるがだんだんと増え、市内や、市外、県外からも注文が入るようになり、また嬉しい事に市内の季節料理の店でも使ってもらえる様

なりました。朝市やクチコミを通じて、まだまだ拡がってほしいと思います。部員も初心忘れる事無く、これから美味しい味噌作りを目指して長く皆さんに愛されるように、研鑽し少しでもふれあい広場の活性化のお手伝いが出来れば幸いです。

編集後記

「ふるさと河内」も発刊して早くも四〇号という回を重ねました。マンネリ化を避ける為、皆様には投稿のご協力も頂きありがとうございます。

私たちは地元南河内で何気なしに生活をしていきますが、他地方に住んでいらつしやる方々には、故郷を思い、新聞を楽しみに待っていて下さる事をお聴きし、皆様が笑顔で「ふるさと河内」を読んで頂いているお顔を想像しながらこれからも新メンバーを迎え、更に向上心をもって取り組んでいこうとおもいます。



編集部員一同